

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670800465
法人名	医療法人 宏友会
事業所名	認知症対応型グループホーム「ほなみ」
訪問調査日	平成 20 年 9 月 4 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	670800465		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ほなみ」		
所在地 (電話番号)	山形県酒田市本楯字前田127-2 (電話) 0234-91-7123		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年11月5日

## 【情報提供票より】(平成20年7月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.9 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての 階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	178円/日 円	その他の経費(月額)	525円/日 円
敷金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,250円

### (4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名	要介護3	2 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名	要介護5	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低 67 歳	最高 91 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	日本海総合病院酒田医療センター・小松歯科診療所
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が毎朝自発的に行う通学路見守り隊、利用者・家族・職員が楽しく・朗らかに過ごせる月1回の「家族の日」、職員の意識向上のために毎年続けられているプライバシー保護の勉強会、夕方から就寝前まで入浴できる支援体制、毎週金曜夜の「晩酌の日」の気晴らしのひと時、利用者と職員が一緒に行う散歩がてらの広報誌配り、地域をリードしていくお祭りの企画/運営、「日中の施設は不自然」という職員意識の形成、災害対応シミュレーション(年4回)と避難訓練(年2回)の実施など、「認知症の方でも喜びは心と体が覚えている」と考え、利用者の暮らしをしっかりと支える取り組みができています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に職員全員で取り組んでおり、繰り返し評価を行って再検討しながら、ケアの統一が図れるまでにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に一回開催されており、現在取り組んでいる内容の報告や理念の検証も行われている。また、会議で出された意見を反映させた家族の緊急連絡網の作成、地域の情報やアドバイスをもらうことができている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時だけでなく毎月の「家族の日」に家族と交流を図っており、家族の意見や要望を積極的に聞く機会を設けている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	祭り、文化祭、運動会などの地域行事に積極的に参加している。また、地域に向けた活動として見守り隊、近隣の保育園への草むしりボランティア、地域住民との室内運動会などを行って交流を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員に意見を出してもらい事業所独自の理念を分かりやすく作り上げており、年度初めには理念の振り返りをしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見えるところに掲げたり、申し送りノートに貼っていつも意識できるようにしている。また、月1回の部署会議で読み合わせを行い、目指すケアができていないかを確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭り、文化祭、運動会などの地域行事に積極的に参加している。また、地域に向けた活動として見守り隊、近隣の保育園への草むしりボランティア、地域住民との室内運動会などを行って交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員で取り組んでおり、繰り返し評価を行って再検討しながら、ケアの統一が図れるまでに行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に一回開催されており、現在取り組んでいる内容の報告や理念の検証も行われている。また、会議で出された意見を反映させた家族の緊急連絡網の作成、地域の情報やアドバイスをもらうことができています。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	ホームの運営面の話、事故についての報告や相談、グループホーム連絡会の話提供など、市の担当者とのやり取りが行われており、サービスの質の向上にもつなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動は「ほなみだより」と面会時や電話・ファックスで報告されている。金銭管理は金銭出納帳を面会時に明示し、確認印をもらっている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時だけでなく毎月の「家族の日」に家族と交流を図っており、家族の意見や要望を積極的に聞く機会を設けている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者への負担に配慮して、馴染みの担当職員が複数いる体制を作っている。また、大幅な職員異動も行われておらず、もし異動があった場合でも、入居者・家族への説明と職員間の引継ぎがしっかりと行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員の勤務年数に応じた研修計画が作成されており、グループホーム連絡協議会や市高齢福祉課が開催する研修にも参加している。また、法人内で実施される研修への参加や認知症に関する公演を聞く機会も設けられている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	庄内地区の認知症高齢者グループホーム連絡会や県グループホーム連絡協議会の研修、交換実習等に参加している。また、研修や実習で得た情報・知識・技術を、日々の自分たちのケアにも反映させている。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との会話を絶やさないようにしており、調理、畑仕事、行事など、利用者が得意とするところを教えてもらいながら、共に支えあう関係が築けるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情、馴染みの職員が話を聞くことによって、本人の思いや意向を汲み取れるようにしている。また、意思疎通が難しい方の場合も、表情や行動から思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者一人ひとりの気付きを書き留め、部署会議でのカンファレンスに役立てており、本人や家族の要望や意見が反映された介護計画書を作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとり10日に1度の頻度で介護計画の点検と必要な見直しが行われている。また、3ヵ月に1度の話し合いも行われ、現状に合わせた計画の見直しも行われている。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力しながら通院支援が行われており、利用者や家族が希望するかかりつけ医に診てもらっている。また、状態に応じた指示が随時受けられるよう体制もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化や看取りに関する指針や同意書」が整備されており、本人や家族にも説明して同意を得ている。また、変化が生じた場合には、かかりつけ医、家族、職員による話し合いを行い、方針の共有が全員で図られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年1回プライバシーに関する勉強会を行い職員の意識向上を図ると共に、常のケアの中で傷つけるような声掛け、対応をしていないか振り返りを行っている。また、記録を作成する際も、周囲の環境に気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や天候を見ながら、その日どのように過ごしたいかを朝のお茶会で決めている。また、買い物の付き添い、畑仕事、縫い物など、一人ひとりの意向に合わせた支援を行っている。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作ったものを食材に使い、調理の準備、下ごしらえ、味見など、利用者にはできことはしてもらっており、楽しみの一つになっている。また、職員と会話を楽しみながら、笑いの絶えない明るい食卓となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であり、ほとんどの利用者が夕方から就寝前までの間に希望にあわせた入浴をしている。また、足浴や仲のよい二人と一緒に入浴する取り組みも行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、掃除、畑作業、地域ボランティアなどの得意分野で力を発揮したり、できない場合でも「見て参加」することで、みんなと一緒に楽しめるようにしている。また、毎週金曜日の夜は「晩酌の日」を設け、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望や天候に応じて散歩や買い物、ドライブを行うようにしており、季節を体感しながら気分転換を図っている。また、散歩がてら広報誌を近隣に配ったり、郵便物を郵便局に出しにいく人もいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員は、日中施錠することを不自然と考えており、玄関やベランダの入口など施錠せず開放状態にしている。外出傾向や帰宅願望が強い利用者の方については、より注意した見守りが行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間、風水害の災害マニュアルが作成されており、部署会議でもシュミレーションを年に4回行い、いざという時の行動ができるようにしている。また、避難訓練については年2回、昼と夜間を想定して行われており、防災頭巾や毛布などの独自の備えもできている。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が栄養バランスに配慮して献立をたてており、利用者1人ひとりに合わせて「刻み食」「ミキサー食」などが提供されている。また、テーブルにはポットが置かれ、いつでも自由に自然な形で水分補給ができる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井の吹き抜けから光が差し込む広くて明るい食堂・居間は、みんなが居心地よく過ごせる空間となっている。また、ちよと腰掛けられるソファが所々に置かれており、足腰が弱りがちな高齢者へのやさしい気配りが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあって、居室には使い慣れたダンスや鏡台、写真などが数多く持ち込まれ、入居者が居心地よく過ごせる個性的な居室となっている。		